

検証の概要

目的：ChatGPT等の生成 A I について、様々な分野での応用が期待される一方で課題が指摘されていることから、庁内業務における活用の可能性を探るための検証を行う。

期間：令和 5 年 5 月 1 5 日～7 月 3 1 日

方法：①実際の業務における試行（共通的な業務、個別業務）
②外部人材の知識・ノウハウの活用
③自治体等の状況確認

検証結果

【実際の業務での試行：計 1 4 8 件】
・共通的な業務：9 1 件
・個別業務：5 7 件（1 2 所属）

【試行内容】
文書の作成、校正、要約、議事録作成、
アイデア出し、アンケート項目の作成、
プログラムコード作成、表計算ソフト
ウェアのマクロ・関数作成、数式作成、
公理・定理の提示 等

【得られた知見やノウハウ】
○文案のたたき台、着想のヒント、意見の予想、
プログラムコードのサンプルのように、補助的
に活用する場合には、業務の効率化が図られる。
○ツールやサービスには特性があり、今後、さら
に多くの種類の生成 A I の普及が見込まれる。
○問い方（入力プロンプト）によって、回答の結
果は、大きく異なる。
○都道府県の状況としては、活用方針・ガイド
ライン・ルールの策定、試験導入、検討会・体験
会・研修会の開催 等

リスクと 注意事項

情報漏えい
リスク

◎注意事項：その 1
機密情報や個人情報を入力しない

信頼性・公平性
の欠落リスク

◎注意事項：その 2
真偽やバイアスの有無を確認する

知的財産権
の侵害リスク

◎注意事項：その 3
著作権等の第三者の権利の侵害に該当
しないことを確認する

検証結果を踏まえた
業務活用の方向性

活用方針

普段利用しているインターネット検索サービスと同様に、
職員一人ひとりが効果やリスクなどを十分に検討した上で、情報セキュリティポリシーを遵守しながら、利用する。

具体的な取組

①国や他自治体等の
動向把握

- ・国のガイドライン等の動向や他自治体等の活用事例等の収集
- ・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」行政部会等での県と市町村の情報交換

②研修会、体験会等を通
じた理解促進

- ・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」交流会での講義及び意見(R5.8.3)
- ・デジタルマッチングボックス AKITA のデジタルソリューション体験会等での利用体験(R5.8.31)
- ・庁内職員研修(R5.9月頃)

③知見やノウハウの蓄積、
活用事例の庁内共有

- ・今回の検証結果、得られた知見やノウハウ等の庁内共有
- ・業務改善実践例などで活用事例の蓄積、他県の活用状況を庁内共有